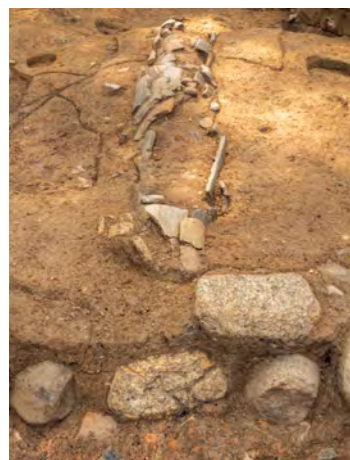




礎石に残る円柱の当たり痕〔径 36cm : 1.2 尺〕と被熱痕（北から）



乱石積基壇外装と北雨落溝に埋没した瓦（北西から）



基壇内を南北に横断する瓦組みの暗渠 1（北から）



食堂への砂利敷参道〔回廊廃絶後：近世〕（南東から）



戦時中の防空壕とみられる長方形土坑〔回廊廃絶後：昭和〕（北東から）



東西 100m 以上の区画であることが判明した東金堂院（北から）

興福寺東金堂院北面回廊の調査

平城第 649 次調査 現地見学会資料（2022 年 10 月 15 日）
法相宗大本山興福寺・国立文化財機構 奈良文化財研究所

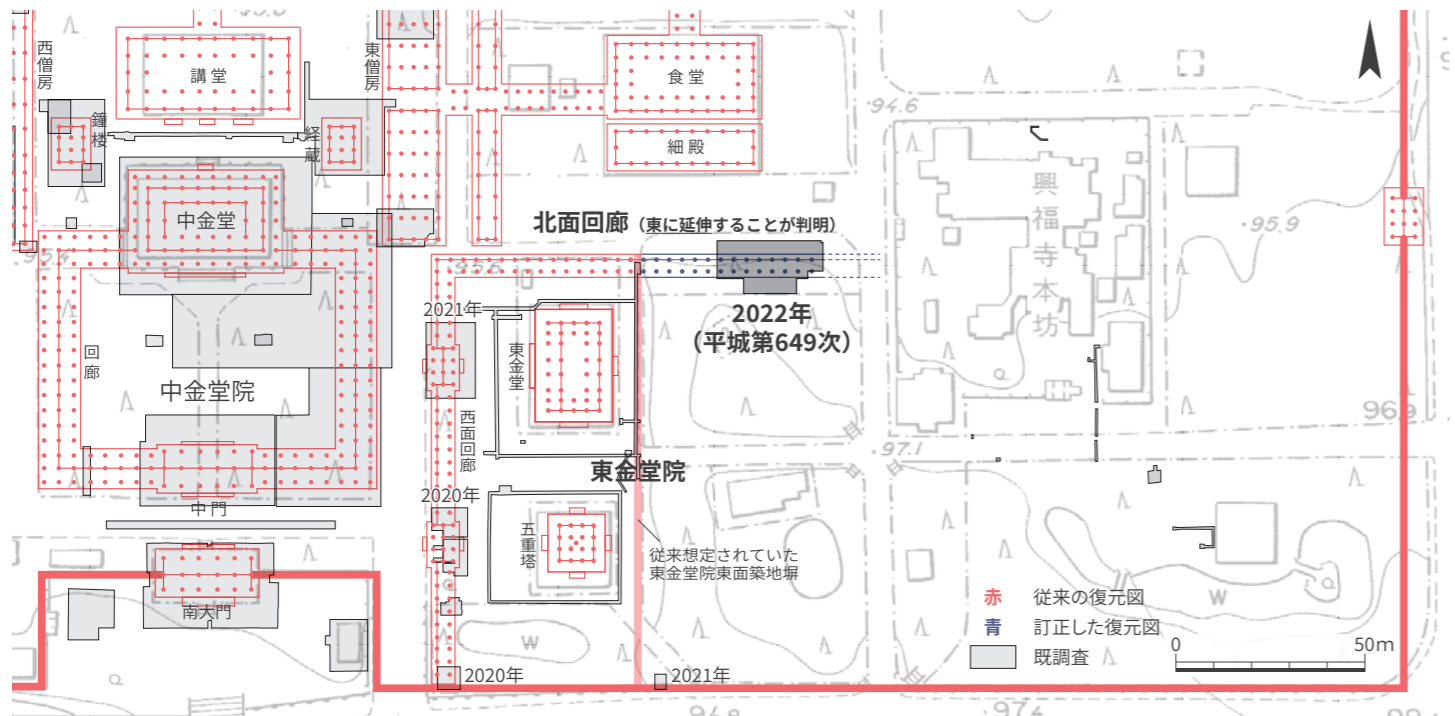


興福寺東金堂院北面回廊（西から）

発掘調査成果の概要

奈良時代創建の東金堂院は、中金堂院の東に位置し、東金堂と五重塔を中心とする区画です。今回の発掘調査で、東金堂院北面回廊の礎石・基壇・雨落溝などの痕跡がみつかりました。北面回廊は梁行1間の単廊で、桁行7間分を確認しました。礎石は創建後に据え替えられたもので、基壇外装は平安時代に改修された乱石積基壇でした。創建以来、たび重なる被災を受けましたが、創建期の位置をほぼ踏襲して再建されたとみられます。

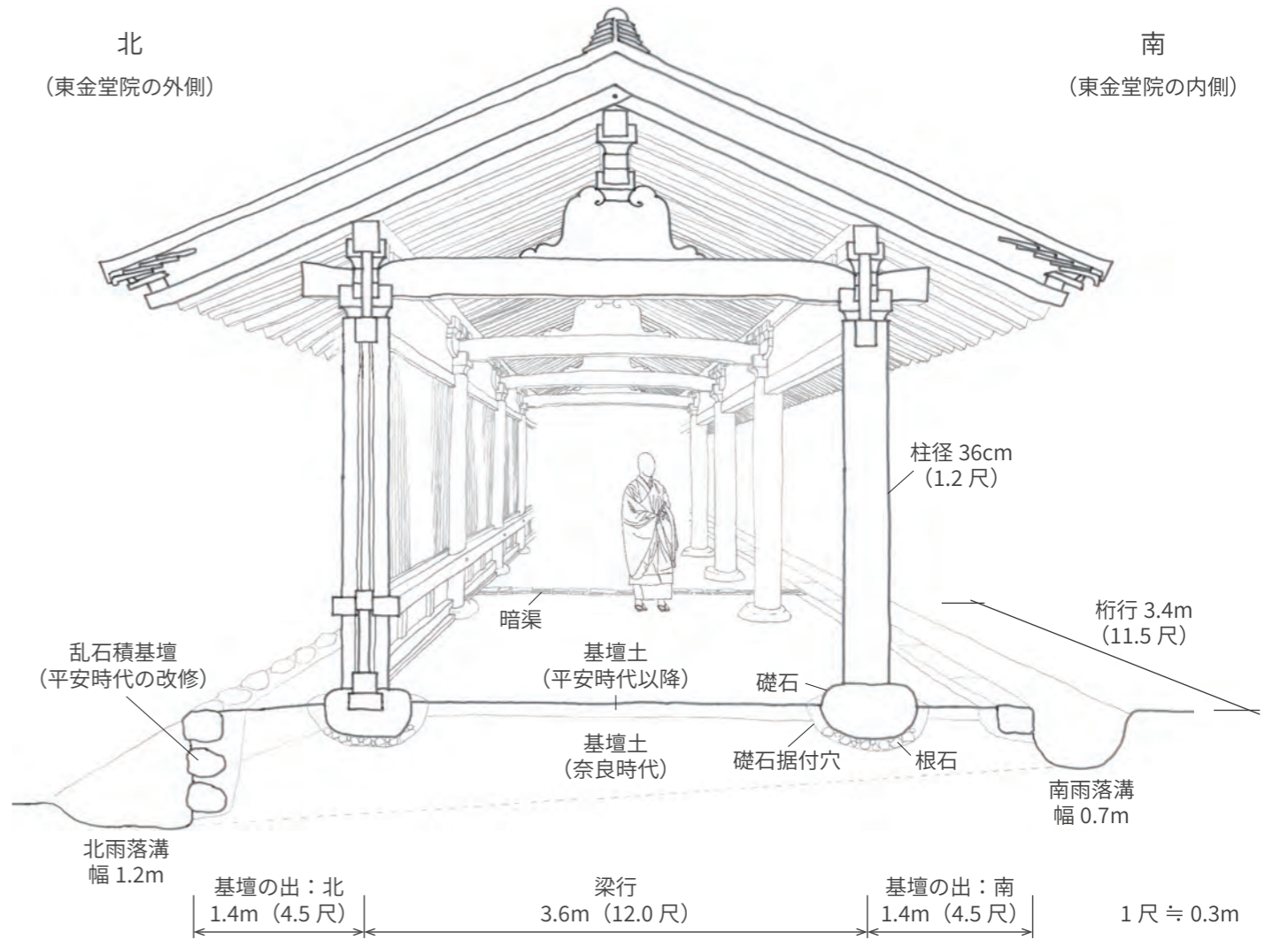
従来、東金堂院の東端は東金堂・五重塔のすぐ東側と考えられていました。今回みつかった北面回廊から、東金堂院は東西100m以上の規模を有する広大な区画であることが判明しました。東金堂院の内部構造を再検討する必要が生じるとともに、興福寺における東金堂院の性格を考える上で重要な成果を提示することができました。



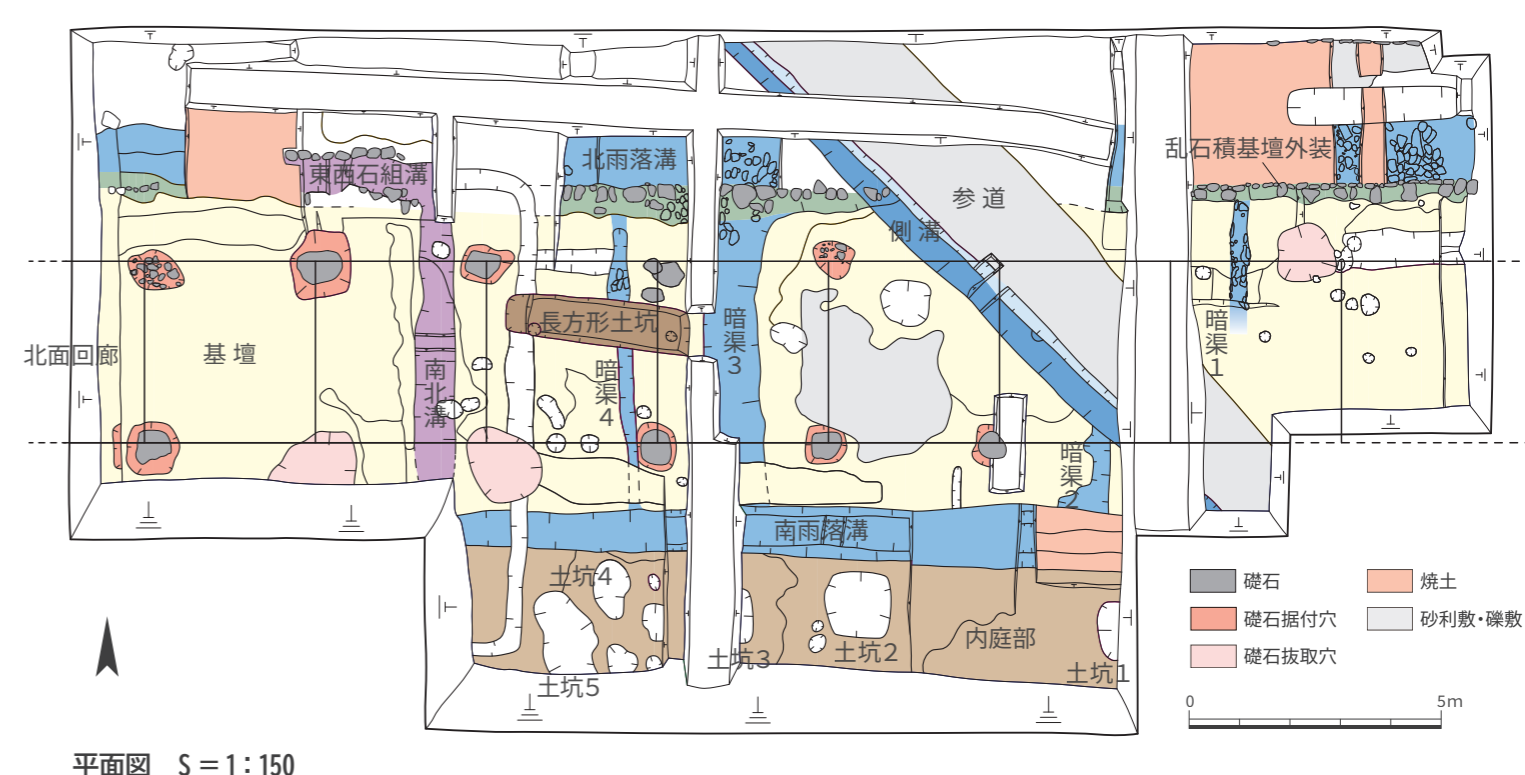
興福寺伽藍復元図と調査地 S = 1:2,000

東金堂院の略年表

西暦	七二六	七三〇	一〇一七	一〇三一	一〇四六	一〇四八	一〇六〇	一〇六七	一〇七八	一一八〇	一一八二	一二〇六	一三五六	一三七〇	一三八八	一四一一	一四一五	一四二六	一八七二	一九四三	一九四四
歴史	東金堂創建	五重塔創建	東金堂・五重塔焼失(雷火)	東金堂・五重塔再建供養	東金堂焼失(五重塔焼失力)	東金堂再建の手斧始	五重塔焼失力	東金堂供養	五重塔供養	東金堂・五重塔焼失(南都焼討)	東金堂再建の手斧始・上棟	五重塔・回廊竣工	東金堂・五重塔焼失(雷火)	東金堂再建	五重塔再建力	東金堂・五重塔焼失(雷火)	東金堂再建	五重塔上棟	南面築地大垣解体	爆風除ないし水槽設置	爆風除ないし水槽設置
東金堂	1次	2次	3次	3次	3次	4次	4次	5次	5次	6次	6次	6次	6次	6次	6次	6次	6次	6次	6次	6次	6次
五重塔	1次	2次	3次	3次	3次	4次	4次	5次	5次	6次	6次	6次	6次	6次	6次	6次	6次	6次	6次	6次	6次



北面回廊 推定復元断面透視図[鎌倉時代] (西から)



平面図 S = 1:150